

点滴速度調整と確認のポイント

定時確認

時間・投与量・速度などが指示どおりであるか確認する。

交換・変更

確実に行えるよう、タイムマネジメントを工夫する。

変動要因の把握・対処

- ・穿刺位置を変える。
- ・輸液ポンプや輸液速度調整補助具の使用を検討する。
- ・確実な引き継ぎを行う体制を整備する。

患者さんの体位変化

点滴速度が変化しやすい患者さんの情報を共有し、点滴速度を確認する人とタイミングを増やす。

患者さんへの説明

食事やトイレの後には点滴速度が変動しやすいことを患者さんに説明する。

患者さんの協力

著しい点滴速度の変動があったら、看護師に知らせるよう患者さんの協力を得る。

異常に気づいたら、必ず医師の指示を仰ぐ

- 予定より早く終わってしまった（投与速度が速くなっていた）
 - ・バイタルサインを確認する。
 - ・副作用や有害事象がないかを確認する。
- 内容液がたくさん残っている（投与速度が遅くなっていた）
 - ・勝手に速く投与しない。

監修：NTT東日本 関東病院 看護部 村岡修子

輸液製剤協議会ウェブサイト

<https://yueki.com>



アクセス
お待ちしております♪



2019年11月作成